

令和6年度 第2回熊本市小中一貫教育懇談会（概要版）

「どのようにすればみんなが小中一貫教育（幼小中一貫教育）のよさを実感できるだろうか」

令和6年9月30日（月）14:00～15:30

事務局説明 第1回小中一貫教育懇談会のまとめ及び今回の協議テーマについて

①小中一貫教育懇談会の今年度の目標の確認

みんなが小中一貫教育のよさを実感できる
学校にするためにはどうすればよいか

②第1回小中一貫教育懇談会のまとめ 小中一貫教育や幼小中連携のよさについて（一部抜粋）

- ◎小学校同士の合同行事により、お互いに全く知らない人というイメージはなくなっている。
- ◎小学校への乗り入れ授業により新入生の安心感が生まれる。
- ◎各学校の課題の共通点を見つけ、課題に対して共通実践ができる。

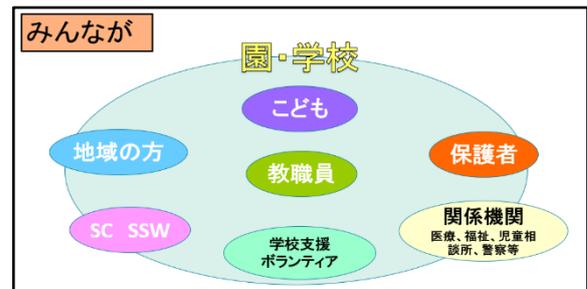
③今回の協議テーマ

どのようにすれば**みんな**が小中一貫教育（幼小中一貫教育）のよさを実感できるだろうか

昨年度の「小中一貫教育及び小中連携教育に関する調査」で、「学校の先生たちは、小中学校間の連携をしていると思いますか？」という保護者質問にお

いて、「わからない」と回答した保護者が3割以上を占めました。各学校で小中一貫教育や小中連携教育が進められていますが、保護者にはこれらに関する取組やそのよさが伝わっていないことが考えられます。

そこで今回は、どのようにすれば「みんな」がそのよさを実感できるかというテーマで意見交換を行いました。下図のように、ここでの「みんな」という言葉にはこどもたちや教職員だけではなく、保護者や地域の方をはじめ、学校を支援してくれる関係者も含めています。小中一貫教育や小中連携教育のよさを感じることができる人が増えれば、みんながチームとして連動して動いていく原動力となり、持続可能な取組につながっていくはずで



意見交換のまとめ ～どのようにすればみんなが小中一貫教育のよさを実感できるか～

○植木北中に入学した中学1年生に尋ねたところ、「小学校同士の交流があり、中学校に入学したときに知っている友達がいって、久しぶりに会えた。」「中学校の授業で意見交換をするときに意見を言いやすく、たくさんの意見も聞いた。」という感想があった。

○小学校と中学校で会議を重ねているので、遠慮なく色々なことをお互いに聞けるようになってきた。

○幼小中でこども同士の交流をしっかりと日頃から取り組むことで、よさが広がっていく。

○こどもや保護者が小中連携教育のよさを実感する場面を考えると、小学校や中学校の入学でスムーズにスタートできた時だと思う。それをより確実なものにするためには、幼稚園や保育園の入学前の面接や情報共有、小学生が中学校に出向いて体験入学や運動会を見るなどの場面をつくっていくことが大事である。

○保護者に対しては、小学校間での合同見学旅行や小中合同の引き渡し訓練など、行事を通して少しずつそのよさが伝わっていると感じている。

○職員がよさを実感できている部分としては、幼小中連携の中で課題を共有して共通実践していくということである。同じ目標を設定して取り組む中で、「共に」という意識が職員に芽生えてきている。

○お互いのカリキュラムを知ることや、管理職同士が仲良くなることが小中一貫教育のよさにつながると感じている。

○よさを感じるためには色々な活動で体験をしていくことが必要だと思う。

○地域の集まりで情報を発信していくことが大切だと感じた。

○情報発信のしくみをつくるとよいと感じた。